

趣 意 書

観察会 第2弾！**再 発 見！ 天 草 の 森・川・海**

—川がつなぐ古江岳の照葉樹林と羊角湾の干潟と海—

日時 2015年12月5日(土)観察会～6日(日)シンポジウム

皆様、お元気のことと思います。

さて、実行委員会では、去る5月16日・17日に第1回目の観察会を実施しました。おかげさまで30名ほどの参加をいただき、好評のうちに終わることができました。ありがとうございました。反省会の中で、秋にも観察会を実施しようという声が上がりました。できれば春夏秋冬のすべての季節の観察をした方がいいのですが、せめて、春と秋の2回はやりたい、観察を継続して、もっと深く自然を知りたい、ということになったのです。

また、路木ダムの河口では、ダムが出来上がった後、どのような変化が生じているか、これも、経過観察が必要です。

そこで、観察会第2弾！を実施します。ふるって参加してください。

第1回の観察会で、私が特に印象深かったのは、金井塚努さんからお聞きしたアカテガニのお話でした。

アカテガニは、海で生まれて陸に上がって生活し、また産卵のために海に帰ると言います。したがって、ある時期、おびたしい数のアカテガニが道路を横断するのに遭遇するわけです。もしも、これまでアカテガニに遭遇していた場所で、それが見られなくなったら、そのことは海と陸の循環が遮断されていることを表し、確実に海の生産力が落ちていることを示している、ということでした。

私がまだ河浦高校に勤めていた頃です。もう10年以上も前になります。夏休みの頃だったでしょうか、勤務帰りに、新和町の海岸道路では、おびたしい数のアカテガニに出会い、ブレーキが間に合わず、何匹かひき殺してしまうようなことが毎年のようにありました。

私は、金井塚さんのお話を聞きながら、上の体験を思い出し、新和町では、まだ森と海の循環がそれなりにしっかりしていて、海の生産力が保たれていたのだな、と、思ったのです。ところが、ここ数年の夏はアカテガニが少ないのです。気になります。

水の大循環は、どこで始まり、どこで終わるのでしょうか。循環しているのですから、始めも終わりもなく、永遠に巡り巡って、その途中、あちこちでいろいろな出会いを繰り返しているのでしょう。ダムに出会えば、水は、通せんぼされますから、よどみ・濁ります。森に出会えば、腐葉土を通り豊かな栄養分を含んだ水になります。循環の途中で出会うものによって水の循環は豊かにも貧しくもなります。豊かな循環を保障し、それによって得られる自然の恵みをいただき、自然と共に豊かな人間の暮らしが営まれることこそ、今、私たちに求められていることではないでしょうか。そんなことを考える観察会でありたいと思っています。ご参加のほどどうぞよろしくお願いいたします。

(洲崎昭重 記)